

テラデータが見ているもの

アナリティクスの将来像を示す「Sentient Enterprise」

デジタルトランスフォーメーションにより、ほぼすべての企業がAIやクラウドコンピューティングのような最先端のテクノロジーを活用したビジネス変革を迫られている。Sentient Enterpriseはこの変革に対応し、市場における競争優位性を確立し続けるためのフレームワークである。

Sentient Enterpriseは、企業がますます高度化するアナリティクスを活用し、ビジネス成果を獲得し続けるために必要となるアジャイルなデータプラットフォームをコアとしている。このプラットフォームの成熟化、高度化は以下の5つの段階で定義される。各プラットフォームの特徴は下記の通り。

<p>1 アジャイルな エコシステムデータ プラットフォーム Agile Data Platform</p>	<p>アナリティクスを実施する上での重要なテクノロジーバックボーン。伝統的な集中型データウェアハウスではなく、バランスのとれた分散型のプラットフォーム。</p>	<p>特徴: ● 階層化されたデータアーキテクチャと仮想データマートにより、無駄なデータ複製を防ぎ、コラボレーションを加速 ● ビジネスユーザー向けのセルフサービスプロビジョニングを強化 ● ユースケースに基づく、分散配置したデータへの一元的なアクセスの実現 ● 要件ありきではない、プロトタイプによるイノベーションの推進</p>
<p>2 行動データ分析 プラットフォーム Behavioral Data Platform</p>	<p>取引履歴など従来のデータだけでなく、ヒト、ネットワーク、デバイスから収集される行動履歴データを分析することで、人々の行動による複雑な相互作用を考慮したインサイトを得るプラットフォーム。</p>	<p>特徴: ● 行動データを処理するために今までの10~100倍のデータ容量に対応 ● 未知の構造やコンテキストのデータに対応するアーキテクチャ ● トランザクション単体ではなく、トランザクション間のパターンや相互作用を検証可能 ● ノイズからシングルを引き出す独創性とコラボレーションを推進</p>
<p>3 コラボレーティブ・ アイデア共有 プラットフォーム Collaborative Ideation Platform</p>	<p>クラウドベースのコラボレーション、ソーシャルネットワークにより企業のアナリティクス専門家コミュニティ全体にインサイトを共有し、アイデア、プロジェクト、担当者のフォロー、いいね、シェアを可能とするプラットフォーム。</p>	<p>特徴: ● サイロ化、そしてアンチ・ソーシャルなアナリティクスを排除し、ベストプラクティスを共有 ● ソーシャルメディア的なコラボレーションで、多くの人の知恵を活用 ● 最も有望なデータセットの検証を促進し、得られたインサイトを採用 ● インサイトの品質管理とガバナンスを利かせる「分析のための分析」</p>
<p>4 分析アプリケーション プラットフォーム Analytical Application Platform</p>	<p>一般消費者向けアプリのロジックとシンプルさを活かし、アナリティクスを組み込み、パッケージ化したワークフローを展開するプラットフォーム。ワークフローはビジネスアナリストが誰でも利用できるセルフサービスアプリとなる。</p>	<p>特徴: ● 開発の重複を防ぐ、アプリケーションを再利用可能にパッケージ化 ● 事後のデータ収集と定義ではなく、リアルタイムでデータを把握 ● IT部門に依存しない、コスト不要のアプリ展開 ● アプリによるインサイトの品質管理と最適化を行う「アプリ解析」</p>
<p>5 自律的意思決定 プラットフォーム Autonomous Decisioning Platform</p>	<p>高度なアルゴリズムにより、企業が人の介入なしに自律的、且つ「知覚的」に戦略的な決定を行うプラットフォーム。人は戦略の立案や主要な意思決定に重点を置くことが可能となる。</p>	<p>特徴: ● 意思決定と組織機能の自動化による「知覚」の自動化 ● 迅速で正確、そしてインテリジェントなアルゴリズムによる状況の把握と対応 ● AIによる複雑なユースケースのより深い分析と意思決定 ● 継続的なアルゴリズムの改善と最適化のための「アルゴリズム解析」</p>

Oliver Ratzesberger
Chief Operating Officer
Teradata Corporation



Sentient Enterpriseの5段階に分けられた高機能なプラットフォームの実現には、ヒト、業務プロセス、およびテクノロジーの変化が求められ、データとヒトのシームレスな連携が必要になる。また、AIの未来へのビジョンであり、その完成形は、企業が大量のデータとアルゴリズムや分析を駆使して自律的に学習し、意思決定を行うところまで昇華されたものだ。

Sentient Enterpriseはデジタルトランスフォーメーションを実行するために必要となるデータとアナリティクスの青写真となるだろう。

「The Sentient Enterprise」:
Teradata Corporation Chief Operations Officerである Oliver Ratzesberger と Northwestern University Kellogg School of Management の Mohan Sawhney 教授により共同考案されたフレームワーク。